

第4回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会 会議録

1 日 時 令和5年(2023年)1月31日(火) 19:00~20:40

2 場 所 長浦コミュニティセンター 集会室兼体育室

3 出席委員 11名

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷	久乃
	学校教育部	部長	米持	正伸
	教職員課	課長	平石	拓
	学校管理課	課長	二見	裕
	教育指導課	課長	川上	誠
	支援教育課	課長	小谷	亜弓
	教育政策課	課長	飯田	達也
	教育政策課	主査	大堀	圭輔
	教育政策課	担当者	武田	裕史

田浦行政センター 館長 依田 隆治(オブザーバー)

横須賀市立小中学校適正配置審議会 委員 上田 滋
櫻井 聡

5 傍聴者 8名

6 議事内容

○飯田教育政策課長(事務局)

定刻となりましたので、第4回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会を始めます。

会議を開催する前に、傍聴及び会議録について確認します。本協議会は、「地域別小中学校教育環境整備協議会の傍聴に関する実施要領」に基づいて、8名の傍聴を認めています。また、会議録については公開します。会議録作成のために、録音します。

委員の皆さま、よろしいでしょうか。

《 各委員から異議なしの声 》

「地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱」第4条第2項の規定により、本協議会の開催に当たっては、半数以上の委員の出席が必要となりますが、本日は、委員12名中11名が出席されていますので、本協議会は成立しております。

それでは、これより進行を委員長にお願いしまして、議事を進めていきます。委員長、よろしくお願いします。

(委員長)

それでは次第の1「第2回横須賀市立小中学校適正配置審議会について」で、事務局から説明をお願いします。

《 「第4回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会」の資料1から資料3までについて事務局から説明 》

(委員長)

ただいま事務局から説明がありました内容について、ご質問やご意見がありましたら、挙手でお願いします。

(委員)

長浦小学校の通学路にトンネルの狭い歩道がありますが、長浦小学校の低学年の女児がそこで転倒して泣きながら帰ってきた事例がありました。

低学年の児童が通うことを考えると、このようなことが考えられます。また、歩道と車道の境のガードレールの構造が、身体との接触時に怪我をしやすいようなものとなっています。国道のメンテナンスについて細心の注意が必要ではないかと思いました。

○飯田教育政策課長（事務局）

通学路の問題については、審議会においても第一に考える必要があるというご意見を頂いています。

国道の整備など市だけの解決が難しいものもありますが、子どもの安全を第一に考え、具体的な危険箇所についておさえていきたいと思っておりますので、その点についてご意見を頂きたいと思っております。

(委員)

先日開かれた町内会の役員会にて教育環境整備計画に関する話がありました。その

中で、地域住民への周知が不足しているのではないかというご意見も頂きました。

また、この計画に関するご意見に対して教育委員会がどのような回答をしたかも含めて、地域住民へフィードバックしていただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

ご意見につきましては、メール等で数件頂いています。

その中でも質問を伴うものについては回答しておりますが、ご意見や本市の回答等について、協議会の場にてフィードバックしていきたいと思えます。

（委員）

協議会の内容を教育委員会でまとめてもらった資料を回覧していますが、計画に対する反応がなく、ただ回覧を回しているだけになっているのが現状です。町内会、自治会、連合町内会等も含め、本件についてどのように考えるかを投げかけることも必要だと感じます。

ところで、回覧の資料は実際に回っているのでしょうか。

（委員）

回覧は来ています。

この計画について、署名活動が始まってから初めて知ったという声もありましたので、ようやく関心を持っていただけたと感じています。

（委員）

地域住民の中には、直接関わりがなく自分事ではないように思う方もいますので、意見募集については工夫が必要だと感じます。

○飯田教育政策課長（事務局）

協議会終了後に協議会ニュースを作成していますが、資料の構成等についてこうした方が読みやすいなどのご意見がありましたら、参考としてお寄せいただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

協議会ニュースにつきましては、対象町内会に回覧し、各小学校の保護者に配布しています。

また、本ニュースの最後の方に市教育委員会事務局の連絡先を記載し、そちらへご意見を出していただく形で募集しているという状況です。

(委員長)

協議会ニュースについて提案等ありましたら、事務局までお願いします。
通学路についてはいかがでしょうか。

(委員)

審議会委員の意見の中に、特定の者への行政サービスと公平性の原則に関するものがありましたが、学校の統廃合は地域住民にとって想定していなかった部分もあるとなれば、この公平性の原則が当てはまるのだろうかと思えますし、逆にこうしたことに対する保障も大事だと思います。

現在、長浦から通う田浦小学校の児童は、自費で通学定期を購入している状況ですが、こうした部分とその条件が違ってくると思えますので、その点は行政で保障していくことが大事だと思います。

ただ、私としてはスクールバスを導入していただきたいと考えます。公共交通機関を使った通学は児童にとって難しい部分があるので、例えば田浦小学校の跡地まで来てもらってからスクールバスで通うという形も考えられますし、スクールバス等で通学路の安全を確保していく必要があると思いました。

○飯田教育政策課長（事務局）

ただいまのご意見につきましては、審議会においても、本市の小学校の通学距離が最長で約4kmという現状がある中で、現在通学費を自己負担している方々とどのように整合をとっていくかを議論した方が良いとのご意見を頂いておりますので、本件についてもご意見を頂きながら整理していきたいと思えます。

(委員長)

学校の建て替えについてはいかがでしょうか。

(委員)

小学校の校庭は、放課後に子どもたちが友達同士で集まって遊ぶことのできる一番大きなスペースとなっていますが、仮に田浦小学校が長浦小学校に編入した場合、スクールバスもしくは公共交通機関の時間の関係上、学校で集まって遊ぶことができなくなる可能性が出てくることについて考えていただきたいと思えます。

また、田浦小学校の老朽化は確かに進んでいますし、それは否めないところです。

ただ、横須賀市全体で子どもたちの人口が減少している中で、なぜ田浦小学校と長浦小学校だけの話をしているのかが一番腑に落ちません。将来的に同じような議論が繰り返されるのが目に見えていますので、学校の建て替えも含め、市全体ないし県全体、そして長いスパンで検討していただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

教育環境整備計画は、老朽化、人口減少、児童数と生徒数の減少など全市の状況を踏まえて作成していますが、その中でも老朽化と学校の小規模化という課題があるという点で、今回は前期計画として田浦地域と走水・馬堀地域を対象にしています。

本計画については、全市的な視点で各地域の将来像を見越して段階的に進めていきたいと考えていますし、教育委員会事務局においても全市的な視点で見ているということでご理解いただければと思います。

（委員）

全市の児童数と学級数等に関するお話は存じています。

それでは、例えば田浦中学校と船越小学校は何年度の計画に入っていますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

今回の教育環境整備計画は合計8年の計画となっていますが、本計画期間に船越小学校と田浦中学校の建て替え等に関するものは入っていません。

（委員）

つまり、今後船越小学校も田浦小学校の校舎の築年数と同じになるのが目に見えているので、次回の8年の教育環境整備計画に入るとということになるのですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

全市的に見ても各地域で学校の小規模化や老朽化等の課題はありますので、本計画は今後も継続的に検討を行っていくものとなります。本計画の見直しや改定等も踏まえながら検討を進めていくという状況です。

（委員）

そうすると、0歳の子どもと小学校1年生の子どもがいる家庭は、例えば子どもが田浦小学校から長浦小学校へ移動した後でも、推計上、長浦小学校が小規模校になる可能性が大きいですし、数年後になればまた違う小学校へ移動するという家庭が出てくることも考えられます。

もう少し視点を広げた形で検討できないか提案させていただきます。

○大堀教育政策課主査（事務局）

長浦小学校につきましては、市内でも築年数が浅い学校です。

また、学校の小規模化の話がありましたが、小規模化したので直ちに検討を始めるかどうかについては、近隣の学校の規模等の状況と中学校区の兼ね合いもありますの

で、現時点では未定です。

(委員)

「横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」には、児童数の適正化に関する記載はないのですか。今の話ですと、児童数に関しては一旦置いて、学校施設の老朽化を機に再編を決めていくというように聞こえてしまいました。

○大堀教育政策課主査（事務局）

児童数に関しては一旦置いてということではなく、本計画の見直しの際に、その時置かれている状況もしくは近隣の学校の状況に応じ、どこを位置付けるかという話になります。

(委員)

長浦小学校の築年数が新しいことと、船越小学校の児童が多いことは知っていますし、保護者の方からも多くの質問を頂いていますが、こうしたことを踏まえてなぜ考えられないのかと聞かれたときに、私はその通りであるとしか答えられません。

○大堀教育政策課主査（事務局）

船越小学校も含めた検討というお話は以前も頂きましたが、各学校の教室数の問題もありますし、船越小学校が老朽化した場合の移動先がない現状もありますので、まず、当面の喫緊の課題である田浦小学校の小規模化と老朽化、長浦小学校の小規模化の課題から取り組んでいくということです。

船越小学校と田浦中学校をどうしていくのかという心配はあると思いますが、それはまた先の話となります。

(委員)

つまり、今回の協議会の資料1に記載されている案2、案3を採用する選択肢はないということよろしいですか。

案3は学校の敷地が狭いことから実現が不可能であり、案2については、田浦中学校の老朽化問題は先の話なので案1を採用していくというお考えですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

案3については、同一敷地内で建て替えが不可能であるという見解です。

案2については、まず長浦小学校においては、運動場面積の基準を満たさない点において困難であるという見解です。次に田浦中学校においては、実際に取り組む場合に工夫が必要であるとしていますし、将来的な話として、その方策も可能性として考

えられるのではないかという見解です。

(委員)

そうすると、今回の協議についてはさまざまな案があっても期間は決まっていないが、事務局としては早ければ令和8年という話があったと思いますが、この話し合いが延びた結果、将来的にはタイミング等が合えば、長浦小学校と田浦中学校に小中学校の併設校を作るという話も出てくるということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

検討期間について令和8年という説明はしていませんが、今の前期計画が延びた結果の話ということでよろしいですか。その場合、田浦小学校の建て替えの時期が来てしまいますので、その点については延ばすことはできない状況です。

(委員)

つまり、田浦小学校は老朽化問題の関係で令和8年には取り壊しが決まっているので、それまでに結論を出すための場がこの協議会と審議会だったということですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

田浦小学校の建て替えができないという見解をお示ししていますので、その中でどのような方策が考えられ、そして方策をとった場合の懸念事項と対応策についてご意見を頂いているところです。

○古谷教育総務部長（事務局）

教育環境整備に関する検討は、今回で終わるものとは考えていません。

その背景に、少子化が私たちの予想をはるかに超えるスピードで進んでいるとうことがあります。数年前までは出生数が100万人を下回っていたのが、今年は80万人を下回る見込みという状況です。最近、異次元の少子化対策と言われていますが、子どもを産む女性も減っていきますので、状況が簡単に回復するとは考えていません。

また、小学校の教員数も減少していくという予測もしていますので、今後どうなるかがなかなか見通せない状況です。

ただ、喫緊の課題として、築年数が70年近く経過している田浦小学校の建て替え計画もしくは移転計画を具体的に示さないと間に合わない状況であることと、田浦小学校の小規模化が進むことで学校運営に支障を来す状況がありますので、これらの課題について取り組んでいるところです。

また、数年後ないし十数年後において、船越小学校や田浦中学校を含めた再編は確実に必要になると考えていますので、段階的に取り組んでいきたいと考えています。

先ほど委員がおっしゃったように、将来的に学校の再編を二度経験する家庭が出る場合は影響を少なくするとともに、子どもたちや地域の皆さまが不安に感じないような方策を立てながら検討を進めていきたいと思っております。

今回の状況は、現在検討を進めている走水・馬堀地域においても同様です。仮に走水小学校と馬堀小学校を統合した後も、その学校規模が小さくなる状況が見えてきていますので、次の段階として、学校施設の老朽化、近隣の学校の小規模化も含め、地域の範囲をもう少し広げた形での再編が必要だと考えています。

(委員長)

本件についてはキーポイントとなる部分ですので、各委員からそれぞれの立場の代表として意見を出していただければと思います。

今回、委員から田浦小学校と長浦小学校の再編に関する資料を配布していただいています。ご説明の方、よろしく申し上げます。

(委員)

審議会委員から、小中一貫の学校とした場合に元からあった全ての課題が解決するかどうかというご意見がありましたが、そもそも全ての課題が解決する施策はあるのだろうかという点において疑問を持ちました。私が以前も申し上げたとおり、より多くの課題が解決できる方策は何かという視点で話をさせていただきました。

今回配布した資料の「プランごとの比較」についてですが、プラン1とプラン2に分け、各項目について校内の教員の皆さまから、前向きなものや心配なものについての回答を頂きました。こちらについては教員からの意見として読んでいただければと思います。

また、配布資料「プランごとの比較」の3に築年数の件を記載していますが、その限度は80年だと聞きました。ですので、他の委員がおっしゃったように、より広域でより長いスパンで検討することはできないかと思っているところです。

もう1点は、例年この時期に実施している学校評価アンケートの中で、保護者の方から教育環境整備計画に関するご意見を頂いていますので、紹介いたします。

“従来の基準による小学校規模のあり方を柔軟に見直し、小規模校のメリットを最大限活用した教育を模索してほしい、生徒数を確保するために学校を広げる発想では、横須賀の現状を考えると学校を維持することができず、地域の崩壊とともに急速な過疎化を食い止めることはできないと思われる。学区の見通しをきっかけとして今後の小学校教育モデルのあり方を全国に先駆けて横須賀市が構築していくことでさらなる高齢化社会における取組につながると思う。今後、横須賀市内に大規模な住宅開発が計画されるとも思えず、現在、3～4クラスを維持している小学校も

10年後には同様、もしくは世帯構成が均一に近い集合住宅では一気に生徒数が減少することは容易に想像できる。1クラス20名単級6学年を維持できる環境づくりの方が将来を見据えた街づくりにつながるのではないか。”

本件は、学校の小規模化の部分に関するものですが、このように考える保護者の方もいらっしゃるということでご紹介しました。

○二見学校管理課長（事務局）

市立小中学校については大部分が鉄筋コンクリートでできていますので、その耐久度を勘案し、耐用年数の限度を80年としています。中でも、当時の人口増の状況に応じて増改築を繰り返してきたところもありますので、中には一部の校舎が耐用年数に迫っているという状況もあります。

また、建物の築年数とは関係なく、GIGAスクール構想の取り組みとしてのインターネット等の設置工事など、全ての学校への設置が必要な事項もあります。こうしたことも踏まえながら、学校施設の設備と用途等について検討していく必要があると考えています。

（委員長）

ありがとうございました。

それでは、資料2の2ページに記載されている「地域について」の部分で、ご意見とご質問はありますか。

（委員）

以前から話していることですが、長浦小学校区のうち、吉倉町と安針台は逸見行政センター管内で、長浦は田浦行政センター管内という状況になっています。各管内の催し物の通達は各管内にしか行かないので、例えば田浦警察署関係の催し物の情報も安針台には行きません。このため、小学生にポスターを描くようお願いしても、その話に通っていないので対応できませんし、このような弊害があります。

また、地域の活動と小学校については、それぞれ仲良く楽しくやっています。コロナもそろそろ落ち着いてくるというところですが、健民運動会もずっと中止しています。安針台は外から来られる方もいますが、地域交流が非常に少なく、神社もお祭りもなく、夏に1回行事があるくらいなのでかわいそうだと感じます。日本古来の行事を一緒に楽しむことができないので、その点も踏まえながら考えていただければと思います。

(委員)

現在、港が丘2丁目が船越小学校区で、港が丘1丁目が田浦小学校区ですが、仮に港が丘1丁目を子どもたちを船越小学校に通わせるとなった場合、自治会は田浦連合町内会に属しますが、港が丘2丁目の子どもたちは、田浦の行事には参加しないでしょう。

そうした状況の中で、港が丘1丁目が船越小学校区となったときに、自治会は田浦のままにしたいとしても、おそらく難しいですし、大人の人は来るかもしれないとしても、子どもたちはまず来ません。

また、港が丘地域よりも遠い地域もありますので、このことも含めて考えないといけないわけですが、港が丘地域はできてから20年経っていない新しい町内ですので、その点も含めて考えていただきたいと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

この点についても、いろいろなご意見を聞きながら整理していきたいと思います。

(委員長)

それでは、全体を通してのご意見でも結構ですので、ご意見とご質問はありますでしょうか。

(委員)

2点意見があります。

まず1点目は、田浦小学校と長浦小学校と統合するのが良いと考えています。

その理由として、男女比も含めて少ない児童数でいろいろ取り組む必要がある点において、教育を効果的にやる上で厳しいと感じることがあります。

次に2点目が、教員の指導力の向上についてです。

新しく教員が入ってくる中で、お互いに先生方が成長し合う、あるいは場合によっては学年で授業を交換し、学年全体を見ながら成長していくという場面が非常に作りづらい点がデメリットだと感じます。

また、費用面に関して言えば、併設校に建て替えした場合に多額な費用を調達できるのかという心配があります。

現在、学校現場では、学力向上や施設改修でいろいろな予算をやりくりして対応していただいておりますが、例えば体育館のLED化やトイレの洋式化など、実際に予算の順番待ちになっている状態の中で、風雨の際に雨漏りする学校がとても多い中で、多額の費用捻出が厳しいのではないかと思います。

もちろん、教育に多くの予算を配分していただきたいところですが、横須賀に住む私たちにとって横須賀が誇れる魅力あるまちづくりを進めるために、バランスの良い

予算配分で進めていることは理解していますので、多額な費用を使うことで他の予算を削るような状況は避けたいと考えています。

○米持学校教育部長（事務局）

ただいま頂いた見解は、教育委員会としても同様のことを考えています。

教育内容について少し補足しますと、現在の学習指導要領においては、主体的、対話的で深い学びを目指していますが、これは、自らが主体的に学ぶ中で、他者と交わることで自分の考えをまとめていく過程が、最終的に深い学びにつながるというものです。

これを自分に置き換えて考えてみると、人間は、例えば学校では先生や先輩、就職後には会社の先輩などいろいろな人に出会うことを通じて学び、成長していくものだと思います。ですから、現在の学習指導要領の学びにおいては、30年後の大人の姿を描きながら、こうした人間に育ててほしいという願いを込めながら授業をしているわけです。これを実現させるためには、先ほど委員がおっしゃったように、ある程度の人数的の中で学んでいくことが非常に重要となります。

それから、教員の問題は、皆さんからすると直接子どもには関わりのない部分のように見えるかもしれませんが、実際は、教員が子どもを指導して育てていくという点で大きなウェイトを占めると思います。

今、若い先生たちが増えていますが、実は、40代以上の先生が非常に少なくなっている状況から、若い先生たちが先輩教員から学ぶ機会を確保することが難しくなっている現状があります。それに加えて学校が小規模化することで教員の年齢構成がいびつとなり、若い人ばかり、または年齢の高い人ばかりの学校になるおそれも考えられます。

また、男女構成のバランスが取りにくくなることは、宿泊行事などで非常に大きなデメリットとなります。男女を指導する上では、男性教員と女性教員の割合は非常に大事です。

こうしたメリットとデメリットを考えると、ある程度の規模の学校とし、できればクラス替えができる規模を維持していくことが重要になると考えます。

○二見学校管理課長（事務局）

学校施設の更新の予算が不十分ではないかというお話も頂いておりまして、これまでにトイレの改修や洋式化を進めてきましたが、工事や資材の価格高騰もあり、大変多くのお金がかかっています。

それから、各学校の体育館のLED化についても、順番に進めています。

たとえ築年数を経た学校であっても、そこで学ぶ子どもたちのために、できるだけ早い時期に終わらせたいという思いで、国からの補助金を活用しながら、年に数校ず

つ進めていきたいと思っています。

ただ、学校施設の建て替え自体については、予算の関係はもちろんですが、建て替え期間中における子どもたちの教室の状態の良しあし、校庭の確保が可能かどうかといった問題が出てきます。こうしたことも含めて検討する必要がある部分については、学校施設の更新工事について回る話だと考えています。

(委員)

1点質問ですが、今回の横須賀市立小中学校適正配置審議会は、私たちが参加している地域別小中学校教育環境整備検討協議会の上位の位置付けという認識でよろしいですか。

○飯田教育政策課長（事務局）

今年度初めに、市教育委員会から審議会に対し、田浦と走水・馬堀地域の教育環境について考えてくださいということで諮問を行いました。

ただ、審議会においては地域の実情を知る必要がありますので、各協議会を開催し、意見の聴取を行っています。

したがって、審議会と協議会において上下関係があるわけではありません。

また、審議会で方策を決定するわけではありません。最終的には審議会で方策案をまとめた上で教育委員会に答申し、教育委員会はこれを受け方策を決定していくという流れになります。

(委員)

本協議会は、田浦地域の子どもたちがより良い環境で学べるようにするための協議会だと思います。

こうしたことを考えたときに、もちろん小規模校のメリットはありますが、子どもたちを見ていると、たくましさの部分が少し不足しているように感じます。

理由はいろいろあると思いますが、子どもたち自身が育ってきた環境に左右される部分が非常に大きいと思います。本来であれば、子どもたち自身がさまざまな部分で競争したり、時には喧嘩したりすることで成長していくと思いますが、小規模校ではなかなかそうした経験を積むことができない部分も考えられます。

また、人間関係が固定化することで、仮にその関係がうまくいかなかった場合に、このことがデメリットになり、子どもたちの今後に大きく影響することが考えられます。

こうした中で、田浦地域の子どもたちを考えた場合、できる限り多くの人数がいる環境下で育ってほしいと思いますし、私としては単学級のメリットよりも複数学級のメリットについてしっかり考えてあげたいという思いがあります。

(委員)

審議会の意見として、実際に単学級ではない別の学校に転校したいとの相談を受けたことがあるというものがありました。私はこれとは真逆のケースも経験したことがあります。小規模校についてはさまざまなご意見がありますが、その児童にとってはこうした小規模校が合っていたというご意見も頂いていることを紹介しておきたいと思えます。

また、他の委員がおっしゃったように、教員の研修という意味では多くの教員がいた方がよいと思えますが、小規模校においては、子どもたち一人一人と向き合う時間が充実しているのではないかと思います。

(委員長)

ありがとうございました。

次回の3月の協議会に向けた宿題として事務局に伝えたいこと等はありますか。

(委員)

田浦地域と走水・馬堀地域については、短期計画だと思います。

横須賀市全体の教育環境整備に関する長期計画を出していただきたいと思えます。

○飯田教育政策課長（事務局）

現時点で、本市の小中学校全体の計画をお出しすることは難しいと考えています。

理由としては、長期的な中で人口の増減を見ていく必要がある中で、先のことを言い過ぎてしまった場合における地域への影響も考えられますし、本市においても長期的な計画の部分がオーソライズされているわけではありません。やはり計画の中でお示していきたく考えていますので、大変申し訳ありませんが、ご要望に沿うことは難しいと考えています。

(委員)

田浦小学校に通う児童を考えたときに、田浦地域の中にはかなり奥深いところもあります。仮に長浦小学校に編入したときに、田浦小学校のときよりも朝早くでなければいけないという方もいらっしゃると思えますが、仮にスクールバス等が出るとなったときに、子どもたちは何時に家を出発すれば良いのかが気になりますし、具体的にどのぐらいの距離でどのぐらいの時間がかかっているのかを知りたいです。学区内でもかなり遠くから通っている児童もいらっしゃると思っています。

○飯田教育政策課長（事務局）

田浦小学校区においては最長で約2kmとなります。

(委員)

意見ではなく感想ですが、教育委員会の方からまずご説明を頂き、学校の確定がありきの話ではないというご説明を受けています。

ただ、例えば案3は難しいということで、通学区域にとらわれずに少し地域を広げて考えてみてはいかがですかというのもなかなか難しいとなっています。

そのような状況になるのであれば、学校を統合するなら早く決めていただき、子どもたちの安心を確保し、懸念事項についてどのようになくしていくかという話に早くなってほしいと思っています。可能であれば、私としては通学区域を広げて考えていただければいいと思います。

(委員)

私も同意見です。

事務局でもう一度検討スケジュールに関するお話を頂ければと思います。

検討スケジュールにおいて、令和7年度で学校の統廃合の話を決めるのかどうか。もし決めるのであれば、どのようにしたら、交通安全面と防犯面において問題をクリアできるのか、国と県にどのように交渉していくのか等について具体的な話ができると思いますので、ぜひ検討スケジュールについて、もう一度ご説明いただければと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

本協議会においては方策ありきで検討しているわけではありませんし、皆さまからご意見を伺っている状況ですので、検討スケジュールをお示しできる状況ではありませんでした。

ただ、そのようなご意見を頂いた中で、通学における危険箇所に関するお話がありましたので、次回はもう少し踏み込んだ協議ができるよう、事務局としても準備を進めていきたいと考えています。

(委員長)

それでは、協議については、ここまでといたします。

よろしいようですので、これで第4回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会は終了とし、進行を事務局へお返しします。

○飯田教育政策課長（事務局）

委員の皆さまありがとうございました。

それでは、事務局から連絡事項についてご説明します。

本日の会議録についてですが、確認用の会議録が作成できましたら、お送りしま

す。内容をご確認いただき、修正がある場合には、送付文に記載の期日までに事務局へご連絡ください。修正しました会議録を皆さまへお送りし、ホームページ等で公開します。また、追加のご意見等につきましては、別途お受けいたします。

次に、次回開催については、事前に皆さまにご連絡していますが、令和5年3月29日（水）の19時から長浦コミュニティセンターにて開催します。開催通知等につきましては後日お送りいたしますので、よろしくお祈いします。

ただいまの内容についてご質問がありましたら、挙手でお祈いします。

ご質問等がないことを確認しました。

委員長、委員の皆さま、ご協議ありがとうございました。

以上で第4回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会を終了します。

以上